青少年水大賞受賞クラブによる北高安小学校環境学習　07 年 07 月 10 日(火)

底樋で休憩　07 年 07 月 10 日(火)

露天風呂　07 年 07 月 10 日(火)

ドブガイ測定　07 年 07 月 10 日(火)

ニッポンバラタナゴ採集　07 年 07 月 10 日(火)

プランクトン採集　07 年 07 月 10 日(火)

ドブガイ調査　07 年 07 月 10 日(火)

ため池観察ドブガイ調査　07 年 07 月 10 日(火)

北高安小学校環境教育　07 年 07 月 10 日(火)

総会と懇親会　07 年 06 月 17 日(日)

6 月定期調査　07 年 06 月 17 日(日)

6 月定期調査　07 年 06 月 17 日(日)

6 月定期調査　07 年 06 月 17 日(日)

愛宕トラスト・ビオトープ管理士会観察会　07 年 06 月 10 日(日)

愛宕トラスト・ビオトープ管理士会の観察を行いました。

ニッポンバラタナゴの稚魚です　06 月 10 日(日)

今年も保護池ではニッポンバラタナゴの稚魚が出てきました。もうかなり大きくなっている個体もいるようです。稚魚の背びれの黒斑が目立ちます。

日本ーストックホルム青少年水大賞受賞式　07 年 06 月 01 日(金)

ニッポンバラタナゴ高安研究会の若者たちが日本ーストックホルム青少年水大賞を受賞しました。この夏休みに日本代表としてスウェーデンで開催される水国際コンテストに出場します。内容は、高安地域の溜池の伝統的な”ドビ流し”がキンタイを救うという話です。この研究は、先人が行ってきた”池干し”の効果、すなわち、閉鎖系水域の富栄養化を抑制すると同時に、ヘドロという有機物を含む資源循環のメカニズムを科学的に証明したことが認められたのです。1999 年に保護池を造成してから、地道に研究してきた成果が、このような形で現れてきてくれたことに、心から感謝しております。本当に嬉しくて嬉しくて仕方がありません。会員の皆様には日ごろからいろいろと心配りをしていただいていたのですが、何も連絡できずご好意に甘えるばかりで申し訳ありません。この 8 年間の定期調査や、保護池の改修工事など、皆さんの協力があってこそはじめて研究もでき、ニッポンバラタナゴの保護活動も進んできたのです。本当にありがとうございます。今後もこの会が続く限り定期調査と保護活動は続けるつもりです。皆さん、ご支援ご協力よろしくお願いします。

6 月 17 日(日)に第 4 回通常総会を開催後、ストックホルム国際水週間コンテストに参加する彼らの壮行会を兼ねて、ニッポンバラタナゴ高安研究会の懇親会を開催します。是非とも、多くの会員の皆様に参加していただきたいと思っています。代表理事:加納義彦

自然の広場 07 年 05 月 27 日(日)

自然のひろ場　07 年 05 月 27 日(日)

5 月定期調査（その 2） 07 年 05 月 20 日(日)

5 月定期調査（その 1） 07 年 05 月 20 日(日)

繁殖期のニッポンバラタナゴ　07 年 05 月 13 日(日)

ドブガイ太郎　07 年 05 月 13 日(日)

5 月のニッポンバラタナゴ 07 年 05 月 13 日(日)

4 月定期調査と実験池の清掃 07 年 04 月 15 日(日)

4 月定期調査　07 年 04 月 15 日(日)

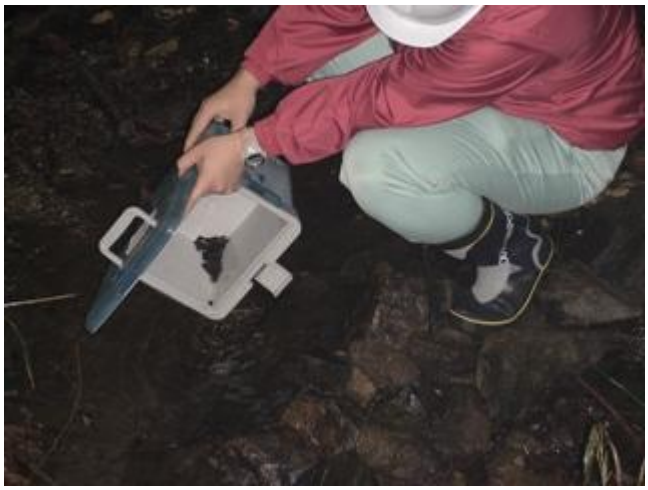
日本ーストックホルム青少年水大賞受賞　2007 年 05 月 08 日(火)

ニッポンバラタナゴ高安研究会の若者たちが日本ーストックホルム青少年水大賞を受賞しました。この夏休みに日本代表としてスエーデンで開催される水国際コンテストに出場します。内容は、高安地域の溜池の伝統的な”ドビ流し”がキンタイを救うという話です。この研究は、先人が行ってきた”池干し”の効果、すなわち、閉鎖系水域の富栄養化を抑制すると同時に、ヘドロという有機物を含む資源循環のメカニズムを科学的に証明したことが認められたのです。1999 年に保護池を造成してから、地道に研究してきた成果が、このような形で現れてきてくれたことに、心から感謝しております。本当に嬉しくて嬉しくて仕方がありません。会員の皆様には日ごろからいろいろと心配りをしていただいていたのですが、何も連絡できずご好意に甘えるばかりで申し訳ありません。この 8 年間の定期調査や、保護池の改修工事など、皆さんの協力があってこそはじめて研究もでき、ニッポンバラタナゴの保護活動も進んできたのです。本当にありがとうございます。今後もこの会が続く限り定期調査と保護活動は続けるつもりです。皆さん、ご支援ご協力よろしくお願いします。加納義彦

自然再生活動 07 年 03 月 25 日(日)

ゲンジボタルの放流　07 年 03 月 25 日(日)

河川森林整備 07 年 03 月 25 日(日)



ふれあい池　07 年 03 月 18 日(日)

ふれあい池へヨシノボリを45個体放流

ドブガイの幼生が平均 18 個体付着しているので、約800くらいのグロキデュウムが移植されたことになります。さてふれあい池でどれぐらいのドブガイが繁殖するでしょうか。

ヨシノボリとグロキデュウム　07 年 03 月 18 日(日)

このヨシノボリはかなり大きく、体長が4cmぐらいあり、グロキデュウムのたくさん寄生していました。大体40個ほど付着してたかな。やはり、ドブガイの繁殖ピークが近づいていますね。

タナゴの採集　07 年 03 月 18 日(日)

３月定期調査　07 年 03 月 18 日(日)

高安みどりの少年団　07 年 02 月 25 日(日)

チップ作り　07 年 02 月 25 日(日)

２月森林整備　07 年 02 月 25 日(日)

2月定期調査　07 年 02 月 18 日(日)

興国高校、関西大倉高校、清風高校、清風中学校の生物研究会のメンバーです。制服は胴長、見事です。それぞれが独り立ちしていくようで、本当に頼もしくなってきました。彼らが高安のニッポンバラタナゴを保護し、里地・里山の水環境を保全し、日本の環境問題を先頭に立って解決していく若者たちなんです。高校生・中学生・小学生、大学生も集まれ！

生態調査に関心がある若者はいつでも参加してください。大歓迎です。来週の日曜日は、高安山の森林整備を実施します。参加希望者はホームページのメールで連絡してください。

今日はカップラーメンです　07 年 02 月 18 日(日)

ドブガイとニッポンバラタナゴ　07 年 02 月 18 日(日)

昨年生まれのドブガイ　07 年 02 月 18 日(日)

1 月自然再生水路整備　07 年 01 月 28 日(日)

ニッポンバラタナゴとゲンジボタルを再生するために、新保護池の改修と隣接する小河川の環境整備を行っています。カワニナが回復するためには餌となるケイソウを増やすために、光がもう少し入るようにすること、カワニナが定着しやすい水路のタマリがいるように思います。環境を変えることで蛍が再生すればいいのですが、そんなにうまく行くとは思えません。何しろため池でドブガイを再生するために7年もかかったんですからね。気長にチャレンジしていきましょう。

森林整備1　07 年 01 月 28 日(日)

郡川上流の自然再生区です。高安山の水循環系を回復させるための 1 つ目の試みです。郡川は 2 つの谷から表層水が集まり、扇状地の下部に地中層水がでてきているはずなんです。現在、上流部の谷沿い 3 ヘクタールの森林整備を開始し始めました。展望台下 100mの範囲なんです。ヒノキの人工林を整備することによって、土壌の流失をおさへ、少しでの保水力を増加させようと考えているのですが、その評価方法を確立させないと効果があったのかないのか判定できませんね。土壌の流失や保水力を評価する方法を現在思考中です。いい方法があれば教えてください。

1 月定期調査（その 2） 07 年 01 月 21 日(日)

今日は、ふれあい池へニッポンバラタナゴを移植しました。

ニッポンバラタナゴ 1000 尾、ヨシノボリ 100 尾、他にモツゴ、メダカ、スジエビ、ヒメタニシを移植しました。ドブガイとイシガイは池干し前に採集した 30 個体と 40 個体を再放流しました。これで準備 OK。さあ、この春にタナゴの産卵やヨシノボリの産卵が見られるでしょうか。そして、初夏にはドブガイの稚貝が出てきたら大成功です。うまくいくかな。

まだ少しヨシノボリの個体数が少ないことが気にかかります。3 月のドブガイ産卵期のピーク時に、追加移植する予定です。

1 月定期調査（その1） 07 年 01 月 21 日(日)

このケースに入っている土は、池のヘドロを少なくとも 1 年間は天日干しした土なんです。この酸化土を 10 個のケースに入れ、池の縁の浅瀬 5 箇所に沈め、ドブガイの稚貝の繁殖状況を調べる予定です。このケース内で有意に多く稚貝が繁殖すれば、どこの池でも簡単にドブガイを増やすことができるンですよ。うまくいくでしょうかね。うまくいくはずです。まあ、結果を見てください。

第 2 回全国タナゴサミット in 八尾　07 年 01 月 13 日(土)

皆さん、準備本当にご苦労様でした。最高のサミットがこの八尾で開催することができました。

大阪教育大学生態研の皆さん、エコブックネットの皆さん、サミットのプラカードよく目立ちました。何人の人たちが皆さんのプラカードを見て、プリズムホールに到着できたか、もしかすると 300 人はいたかも。ありがとうね。絵本”キンタイくんのぼうけん”を家でゆっくり読んだ人はこの絵本の価値を再確認したでしょうね。”ドビ流し”は池の生き物にとっては恐ろしい嵐なんですが、この嵐が来ることによって池の生物の多様性が持続してきたなんて、思いもしなかったんです。しかし、ドブガイ爺さんや長老のイシガメはそのことを良く知ってたんです。人間は稲を作るために毎年、伝統を守って”ドビ流し”を繰り返してきたのに、今ではほとんどの池が放置されたままなんです。もう伝統の大切さなんか必要ないんでしょうか。”池干し”の意義なんてもう省みないンです。しかし、池の干すことの重要性を科学的に証明してくれたのは、清風中学や高校や興国高校、関西大倉高校の生徒たちです。今回のサミットは、小学生からお爺ちゃんまで、遠くからはるばる参加して下さった専門家から近所のおばさんまで、みんなの目が興味津々だったんですよ。皆さんの熱気が会場全体に広がり、不思議な空間を生み出していたんです。こんなこともあるんですよね。

皆さん準備ありがとう 07 年 01 月 13 日(土)

環境アニメイテッド八尾の皆さん、共催、本当にありがとうございました。今回のようなサミットが開催できたのも、裏方として骨身を惜しまずバックアップしてくださった皆さんのおかげです。八尾市にこんな素晴らしいネットワークができつつあるのも、思いが通じ合える仲間がいるからなんですね。今後ともよろしくお願いします。

準備ご苦労さん　07 年 01 月 13 日(土)

受付に皆さん,ご苦労様でした。本当に多くの皆さんに参加して頂きました。懇親会も 100 人を超えて、座る席がないほどでした。どの席を見てもみんなが初対面とは思えない盛況ぶりでした。集まることがこんなに楽しい会は、めったにないものですね。私も本当に興奮気味でした。はじめて顔を会わせた会員の皆さんもたくさんおられたみたいです。こんな機会を何度もつくりたいのですが、こんなチャンスはなかなかないですね。また、来年は関東で行います。皆さん是非参加してくださいね。

パネルディスカッション　07 年 01 月 13 日(土)

パネルディスカッションは、まずは葭仲先生から、かつての高安の里のごく自然な生活様式の思い出と溜池の利用方法について話していただきました。そして生活様式が一変してしまった現在、地域の水環境の保全といのちの豊かさをいかにして維持していけばよいかという問題提起でした。次に、環境部長の山本さんから市民と行政のあり方について、役割分担制という行政の一方的な押し付けでは、市民が反応しない現状を的確に述べ、共同実践の重要性・必然性を雄弁に話していただきました。コーディネーターの森さんからもそれぞれの発言内容を受けてうまくまとめていただき、参加しているみんなが、関心をグッとひきつけられる展開になっていきました。さらに紀平先生の話も高安地域の問題を全国的な話題へと拡げながら、紀平さんのかつて生徒たちと調査していた話から、40 年以上続けられている水環境の保全活動に話題移り、会場も笑い、耳を傾け、大きくうなずくシーンが私にははっきり見えていました。

会場とのディスカッションも始まり、本音のトークをするために場を和らげ、なんでもありの雰囲気を森さんもうまく造ってくださったのです。やはり 400 人を前に自分の意見を伝えることはなかなか勇気がいることのようですね。こんな時はやっぱり笑いが一番なんです。ボケとツッコミがいるんですね。なかなか松本先生にもがんばっていただきました。ありがとうございます。東郷先生の質問には、一言、実践あるのみだったんですが、それでは皆さん納得できないでしょうね。いくら明解があっても納得できるもんではないような問題もあるんでしょう。なぜいま里山保全なんですか。地域経済と如何に結びつくかは、大変大きな問題なんですが、実践して見せなくては人は動かないもんなんです。面白いですよね。環境省や国土交通省の官僚の方に一言、言ってもらってもよかったなと今思っているところなんです。皆さん本当に愉快でした。

エクスカーション高安の里保護池めぐり 07 年 01 月 13 日(土)

保護池ドブガイの繁殖状況を説明する。大阪経済法科大学ふれあい池で”池干し”の重要性を解説する。

第 2 回全国タナゴサミット in 八尾懇親会　07 年 01 月 13 日(土)

懇親会参加者が 110 人を超えました。中華料理店『彩園』さん本当にありがとうございます。

閉会の挨拶　07 年 01 月 13 日(土)

閉会の挨拶は、ニッポンバラタナゴ高安研究会の西辻さんにお願いしました。1 時間以上超過したサミットの締めくくりをできるのは西辻さんしかおられないだろうと思い、お願いしておいたのです。この会が八尾で開かれたことを本当に喜んでおられる、その気持ちが皆さんにストレートに届いたと私には思えたのです。この瞬間に、スタッフがみんな達成感に満ち溢れたような気持ちになったんです。こんなに多くの人に喜んでいただけるなら、何度でもやってみたいとスタッフは訳のわからない充実感でいっぱいになっていたようです。私はそんな皆さんを見てました。ありがとうございます。

現状報告（九州） 07 年 01 月 13 日(土)

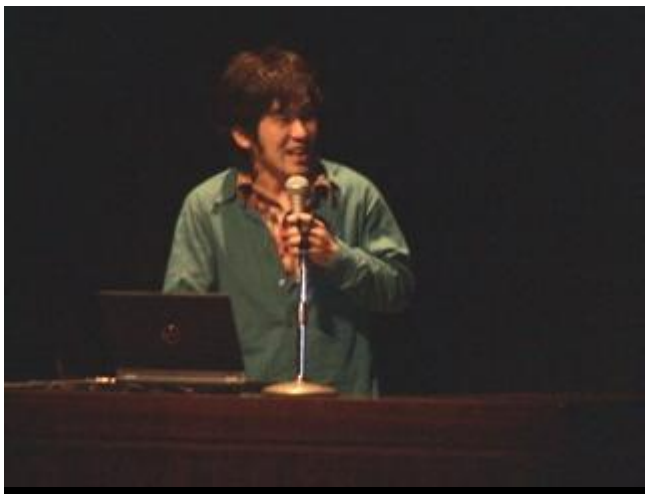
現状報告紅一点、九州の現状をわかりやすく報告していただきました。行政がここまでタナゴに力を入れているんだということで、感心された方もたくさんおられたことと思います。皆さん、本当に九州のニッポンバラタナゴも絶滅の危機をむかえているのです。協力よろしくお願いします。何と言っても地域の力が働かなくては、環境保全なんか空論になってしまいますよね。

現状報告（中国・四国） 07 年 01 月 13 日(土)

スイゲンとニッパラはよく似てるんですが、生息環境がかなり違うようですね。スイゲンを保護することの難しさがよくわかりました。たぶん淡水二枚貝の利用方法が少し違うのでしょうね。一度、現場を見てみたいと思いました。四国のニッパラについても、行政と市民団体のネットワークが大きく拡がることが、地域の水環境の保全につながり、いのちの豊かさを求めることができるんだということを改めて再確認しました。

現状報告（東海・関西） 07 年 01 月 13 日(土)

タナゴはやっぱり美しい生き物ですね。環境が悪化するとその姿が一変してしまいます。見るものが見るとその違いは明白です。東海のアブラボテはなんとも言えず綺麗なんです。ニッパラもヒレをあんなにピーンと立てて、求愛するんです。フラフラして泳いでいるのは、その環境が最悪の状態になっているからなんですよ。環境さえ回復すればこんなに活発になるニッパラなんです。ドブガイも出水管と入水管を見るとその環境がわかるんですよ。皆さん見ていただけましたか。水の色も植物の揺らぎ方も生き生きしてくるんです。キンタイくんのぼうけんとゆう絵本を一度読んでみてください。キンタイくんはザリガニなんかに負けません。面白いですよ。



ポスター発表　07 年 01 月 13 日(土)

学会でもこんなに真剣に発表者の説明を聞いている会は少ないんです。本当に驚きました。みんながどの発表を見ても面白いという感じなんです。小学生も発表しているし、博士も発表している。こんなポスター発表会場を見たのははじめてなんです。なんだか不思議な現象なんです。なぜこんな現象が起こったのか、見るものすべてが興味津津なんですね。それはね、いろんな人が参加してるからなんでしょうね。それでいて、環境やタナゴに関心を持っている人たちだったからなんです。このサミットのはじめに開演した演劇のすばらしさが、皆さんに火をつけてしまったようなんです。まさかニッポンバラタナゴやドビ流しが出てくる演劇を誰が想像していたでしょうか。一言一言言葉が出るたびに、放課後のホームルームにみんなが引き込まれていきました。気がつくとなんだか目に涙が浮かんでいるのです。別に悲しい話ではないんですが、なんだかジーンとしてしまったんですね。私は昨年のタナゴサミットの直後に、川田先生にタナゴの保護の演劇を作ってよ、と簡単に言ってしまったんです。まさか本当にこんな作品ができるなんて思いましていませんでした。

今回のサミットが近づいてきたとき、できる限り多くの人の参加発表をしてもらい気持ちから、タイムスケジュールにかなり無理が生じてきたんです。どうしても 1 時間の演劇を上演することは困難になってしまったんです。川田先生には、本当に無理なお願いをしてしまい、その上、さらに勝手なことを言ってしまったことを本当にお詫びします。

今回のこの演劇は、第 2 回タナゴサミット in 八尾のための本当のオリジナリティーを生み出す原動力だったんです。観てる方の目が時々刻々と変わっていき、内面が揺り動かされ、眼から鱗がほろりと落ちてしまったんです。居眠りをしていた人も湧き上がる不思議な力に取り込まれていったのです。嘘じゃありませんよ。このポスター発表を聞いているみんなの顔を見てください。このきっかけは間違いなく今回の演劇の音と光と風が生み出したものなんです。川田先生、高松工芸高校演劇部の皆さん、ほんとうにありがとう。

パネルディスカッション 07 年 01 月 13 日(土)

第 2 回全国タナゴサミット in 八尾　07 年 01 月 13 日(土)

開演前の会場です。さーて何が始まるんでしょうか。

現状報告（関東）（関西） 07 年 01 月 13 日(土)

発表の皆さんには、本当に無理ばかり言ってしまいました。全国各地から参加していただいた講演者に 7 分間で現状報告をしろなんて無茶苦茶です。本当にごめんなさいね。石鍋さんの報告書を読むだけで 30 分は有にかかってしまいます。小川さんの言いたいことを箇条書きにしただけでも 20 分は必要なんです。報告を聞かれた多くの人たちが、発表者一人一人から 1 時間は話しを聞きたかったといわれてしまいました。

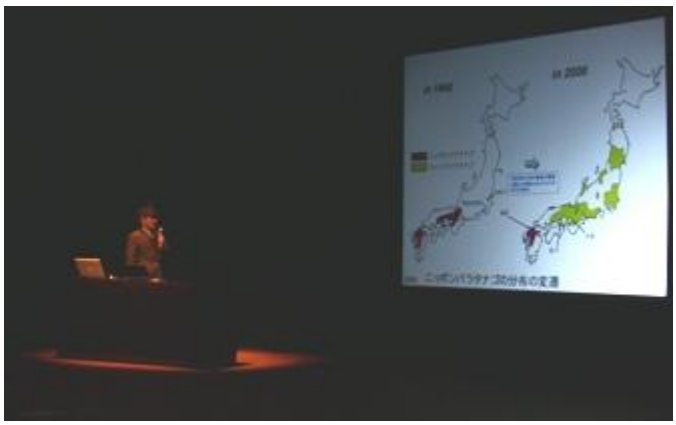
さらに主催者側の注文は多く、必ずタナゴの素晴らしさ、美しさを皆さんにわかってもらえる発表をしていただくように要請しました。何という無茶を言ってしまっていたのか、皆さん最高のまとめでした。ありがとう。

現状報告（東北） 07 年 01 月 13 日(土)

伊豆沼から、ほんとうにゼニタナゴが姿を消してしまったんです。人間が関与した開発や生活様式の急変で伊豆沼の生態系を大きく変えたことも事実なんですが、やはり外来魚の問題がゼニタナゴの絶滅に大きく関与していることは事実でしょう。ブラックバスも生けていくためには雑魚を食べるのは仕方ないことなんです。伊豆沼にブラックバスを入れたのは人間です。鳥なんかではありません。保護活動と思って行ったことが、他の生物を絶滅に追いやった典型的な例かもしれませんね。伊豆沼の問題はラムサール条約の対象湖になってからの出来事なんです。この問題を見るにつけ、人間が生物を保護するなんておこがましいと、ついつい思ってしまうんですが、他の生物を絶滅へ追いやるのも人間なら、他の生物を絶滅から救うのものもやはり人間しかいないんでしょうね。長田先生はいつも小声で、環境に悪いことをするのは人間なんだけど、いいことをするのも人間だということを見せてみたいよねと、テレながらおっしゃるのです。本当にそうかもしれませんね。私はブラックバス問題についてあまり関心がない方なんですが、伊豆沼に関しては、ほおって置くわけにはいかないでしょう。伊豆沼のブラックバスには申し訳ないんだけれど、人間が責任を取るためには仕方ないかなと考えてしまうんです。私は、ニッポンバラタナゴとバスのゾーンニングを実現させたいとときどき考えているんですが、むりなんでしょかね。

基調講演　07 年 01 月 13 日(土)

河村さんの遺伝子から見た淡水魚の保護に関する発表は、見事でした。こんなことまで判るんですね。遺伝分析の話は難しすぎて理解できないという人がいましたが、こんな話を聴けてきてよかったという人の方が 10 倍も多かったと思いますよ。長田先生のタナゴ事始、森先生の環境保全生物学、河村さんの遺伝子から見たタナゴ学、この 3 つの話がうまく調和して基調講演としてのバランスを見事にとっていたことが、多くの皆さんを惹きつけ、最後に行われた 1 時間遅れのパネルディスカッションまでつながったんだと思います。でないともう会場は誰もいなくなってしまいますよね。やはり、みんなが面白くて楽しかったんでしょうね。なんでもバランスが重要なんでしょう。偏りすぎると頭が痛くなってきますもの。次回のタナゴサミットに是非参加したいという方々がこんなにいるなんて、スタッフ一同、これ以上嬉しいことはありません。



基調講演　07 年 01 月 13 日(土)

長田先生のタナゴことはじめ、森さんの環境保全の実践と記載、科学的解析と生活世界の融合、共同とネットワーク

司会の紹介で演劇が始まる　07 年 01 月 13 日(土)

和やかでほんわかとした紹介で始まる高松工芸高校の演劇、
知らないということが引き起こす重大な社会問題が、校内の生活指導室で繰り広げられる、
教師と生徒との思いが会場にしっかりと伝わり、内なる感動が一つに共有した瞬間。

『第2回全国タナゴサミット in 八尾』開催　07 年 01 月 13 日(土)

『第2回全国タナゴサミット in 八尾』を八尾市文化会館プリズムホールで盛会のうちに開催することができました。参加者は約500人、こんなに多くの人が集まってくれるとは思いもよりませんでした。何と言っても全国のネットワークが大きく拡がったことに感激しています。皆さん、本当にありがとうございました。サミットの内容については、また少しずつ紹介していく予定です。

新春調査後のスタッフ打ち合わせ会　06 年 01 月 04 日(木)

1 月 13 日（土）に開催される『第 2 回全国タナゴサミット in 八尾』に関する打ち合わせ会です。会場案内・受付・ポスター係りなど当日の役割分担などを話し合いました。

現在のところメールでのタナゴサミット参加申込者は、100 名程度ですが講師・ポスター発表者・演劇発表者・スタッフを加えると 200 名になります。会員の皆さんが全員参加して下さるとほぼ 300 人になります。さらに、高安みどりの少年団員や環境アニメーテッド八尾の会員、八尾市内の各種市民団体、八尾市の小中高学校の教員や生徒・児童、大阪府みどりのトラスト協会、全国のタナゴの保護や水環境に関心ある人たちが、この八尾に集結する予定です。

さて何人の人たちが参加してくれるでしょうか。楽しみですね。

1 月 8 日の読売新聞の科学面に『第 2 回全国タナゴサミット in 八尾』の開催についての記事が記載される予定です。

本当に楽しみですね。

小さくて美しいタナゴの問題は、日本の全国の水環境問題と大きく結びついています。『第 2 回全国タナゴサミット in 八尾―地域の水環境の保全といのちの豊かさをもとめて』では、全国の水環境の現状を知っていただき、タナゴネットワークを拡げるために本音で語り合えるサミットにしたいと心から願っております。

新春調査はじめ 06 年 01 月 04 日(木)

ヨシノボリに寄生するドブガイの幼生（グロキディウム）

そろそろドブガイの繁殖期に入ったようです。今、保護池には3歳以上のドブガイは約20個体、2歳以上が約300個体、1歳（去年生まれ）のドブガイは約2000個体が生息しているはずです。だから、今年はヨシノボリに寄生数はたぶん多くなるでしょうね。

新春調査はじめ　06 年 01 月 04 日(木)

1尾のヨシノボリに寄生している平均グロキディウム数は約 10 尾ぐらいでした。今年はなんとなく多いように思います。

さて、どのような野外実験を組もうか、みんなで話し合いました。花卉栽培用の小さいコンテナーに天日干しした土を入れ、対照に池底の土を入れたものと比較してはどうかという意見です。今年は、この冬ではなく、次の農閑期の 11 月にドビ流しを予定しているので、ドブガイの繁殖率は減少するでしょうね。そこでこのコンテナーの中だけは、うまく繁殖してくれるのではないかという考えです。うまくいくかな？まずは何事もチャレンジですね。

高安の里　06 年 01 月 03 日(水)

神立地区の花卉栽培と高安山の落葉広葉樹

高安の里池・里山 06 年 01 月 03 日(水)

新春の大窪の保護池と服部川の総池から臨む高安山